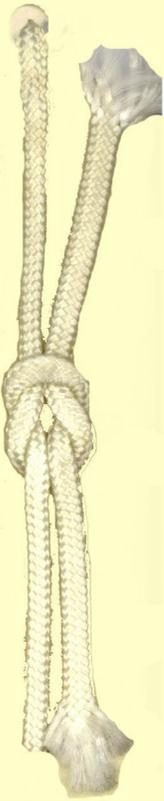


風見



東京経済大学
体育会帆走部

目次

はじめに。	2
幹部の言葉。	10
四十七年度部の沿革。	14
現役部員の作組。	16
合宿所でのニース。	40
合宿日誌より。	42
現役部員の紹介。	44
新人OBの作。	50
編集後記。	68

現役部員の作口

新人のBによる作口

新しい視野

部長 大竹 勝

先日、体育会の総会のあとで飲んでいる間に、富田君と英語について雑談していろいろうちに、ICUのアメリカ人学生をヨット部の客員に迎えてみてはどうかというところになり、OB柳下君などの賛成もあって、いよいよ交渉の手紙を持って行くところまで来た。私は諸君が虚心坦懐にこの試みに関心を示したことに好感を

覚えた。もともとこのヨット部は財政的にすっきりして、しかも緻密な頭脳の持ち主を必要とする部で、運動神経だけで済ませるものではない。これは経済人となるべき諸君には格好の試練である。諸君はヨット部でも極めてハイカラなスポーツ部である。大学ヨットクラブの部員であることに大きな自尊心を持つべきである。そして今や日本が青年の総マが要請され、持っている国際人たるの視野を持つべきことに理解を示し

たことに、他人の期待を持つ
訳である。しかし、新しい
計画を立てたからといつて
それが成功したことにほな
らない。すべては努力のた
まものである。このような
計画は一見は、はじめに見え
れども、はじめて始めるとは
事も成功するものではない
。対人関係、ことに外国人
に接することの少なかつた
諸君が、相手の目を見て、
ヒューマニティをまじえて、す
なおに、自然に、しかも紳
士的に交友する機会を得る
ことを希望してやまない。

英語の話せるヨット部が
将来のモットーとなり得る
ことを祈る。

監督 舟山 広志

先ず、新監督にひて、私個人の心境、
かゝ述べる事にします。八月のOB戦の
終つた日に前監督、今の総監督の羽
草氏からの進めに、より監督に成る様
に在りまれば、私自身出来るか大變
悩み色々な人々に相談しました。その
相談と、ソウのは、個人の考えを捨て
東京経済大学ヨット部と、何十人かの

部員の為に、何をしなければなら
ないのかを才一番に考える事とした。
実は私も仕事の都合で連絡が
あっても行く事が出来な様な時、
内心配する事があり、仕事を
を捨てる事も飛んで行きたる時
もありました。さうかし前監督も
さういう風に考えられた事さう
私を引受けた以上一生懸命ヨット部
の全体を少しでも早く把握しよう
と思ひ、九月に一週間程合宿に参加し
部員の人格や性質、考え方を自
分なりに解釈したつもりで、
OB会や現役の人達と一緒に考え、そ
うして行動して来たと思ひますので
宣う御願ひします。

次に私の抱負を三、三述べる事にします
一、ヨット部というのは実は私が幹部の
時に色々は事がある。部を解散する
か、存続するかという時があり、リック
の繁関氏に相談に行き、叱咤された
事がありました。さうのは大学ヨ
ット部というものはOB会がバックア
ップして行かなければ運営出来な
いから、私達がOBになった時に、その
考えがあるのか、存りのかと聞かれ
ました。その事実は解かすな
つたので、今日になつて尽づくその
意味が解つて来ました。
二、これから現役はOB会と絶えず
連絡し合ひ、OB会が徐々に大学
ヨット部の運営に参加して行

うではありませんか。私も努力
させていただきます。

二、これもOB会に対する抱負です
が、現役があまりにも、アルバイト
や自己負担が多いため、三の概
念と卒業してからも、社会を大き
な目で見る事が出来なくな
るんじゃないかと、どうにか
その事が私にとって恐ろしく
思われませんか。なるべく
現役の負担が軽くなる様
に考えたいと思います。

三、現役は各人自分の置れ

いる立場をよく考えて、自分の
意見をしっかりと持ち、東京経済
大学ソフト部がより良く発展
するように慎重に行動して
もらいたいと思います。

第八期主将

富田秀隆

470

一 新艇470が突如我々学生

ヨットに入り込んで来た。

そのSTYLEは線細で水もしたた。

乙々の柔肌を相像させる。しかも値

段は470の協会に所属する者であ

れば27,5000円と格安で入手で

きる。470がA級ディンギーに

変わり学生ヨットの「新艇種」となる

には種々の事情もあったと聞いている。

事情はどうであれ、今470が「正」とした

新艇になったからには我々ヨット部に

於いても一日もはやくこれを三艇そろ

えねばならない。ちなみに各大学

については北大(3) 小樽商大(2) 埼大(2)

東北学院大(1) 東北大(不明) 東大(5)

立教(3) 横国(2) 千葉大(3) 千葉五(2)

法政(3) 以下と多少資料不足ではあ

るが関東勢を除いて全国的に3艇

2艇の学校が多いと聞いている。

関東に於ては、三部校や私立校で

はまだ1艇の所が多いことは事実で

あるが、いずれにせよ各学校 来年度

秋季イニシャルまでに3艇耳をそろえ

出場するものと思われ。

二 我部は過去スナンプに於いて苦しい目

に会わされて来た。それはテクニク

のLOW LEVELヒリス艇が三艇な

かた事による。ヤンヒリスを解決する

ために八年を要したのである。

今ここで「470」の「LEVEL」から
落ちたなら、それを取りもどす
為に五、六年は要する。

ヨットとはそんなものである。しかして
その対策はいかにや。

三 本年度の470選手権に於いて

(世界選手権出場権利者)多数の
学生参加者の中で二宮氏(立教大OB)
がその栄光を勝ち取った。

我部はOB現役共不参加である
470は艇速が速く安定性が
ない。乗りこなすには大変な船である
しかしこれを現役だけの艇にしては
いけない。各対策などいづれでも良
いのだ。常に前向きでぶつかるので
ある。OBも現役も共に選手権を
目指し練習するのである。

さうすれば「LEVEL」にもなり艇を
ふやすことにもなる。真にこの470
を乗りこなすには、まだ二年はやくて
一年かかる。今こそのがしてはならぬ
CHANCEなのです。持論各大学にあ
てはまる事ではあるが、この線から抜け
出した学校が今後関東に於いて、いや
日本に於いて一流校へと飛躍する
事となるに違いない。

四 立て、今こそ立ち上がり！OB現役
がちりスクラムを組んで今こそ立ち上がる
べきである。OBが艇を持って、今この
我部に於いては可能である。そして未だ
来年度の選手権にはOBも現役も
出場しようではありませんか。それが470
を制覇するた、た一つの道である
と私は思う。

一言

前副主将

長谷川 康二

私が部長として、副主将として
体験した事を三三三三三三言葉に
現わしたとは思いますが、どうも
文章では現わし切れないので簡
単に述べるとそれは、誠意、責任
忍耐、努力がある（この順序に優
劣があるわけではなるといふ事
を加えておきたい）一口に誠意、責
任、忍耐、努力とソレも、いざ行動
に移す段にそれば、生易し
ことではなけれ、人各々によつて受
け取り方が違ふであらう。

例えは誠意とソレ事ヒ
も、俺は三の事に對してこ
れだけ誠意を尽し且と思
ても、他人がすれば足りな
かも知れなれど、ソレ風
ある、しかも三の言葉
には、様々な要素がか
どくるから直更おずかし
事となるのである。三の
言葉はあくまでも最低限
事があり、もつとも、と複
雑であると思ふ。それは四
間クラブをやらねば大なり
小なり味のある事がある
の本人がボクシーとして
何もなすなれ。ある時は

鋭敏に あり時は鈍欲に吸
収してやろうとソウ前向き
な姿勢を持たない限り得る
ものは向もないし、やつて
いるニと自体が無駄となる
ぞあろうぞあ子かろしと
俺は東京経済大学のヨツト
部ヒいて、ニういうニとを
しと来たと自身をもつて人
に言える様にクラブに臨ん
ぞ欲しい。それが個人の成
長となるし、引いては部の発
展につながるかと確信する。

幹部の言葉

主将 小日向高志

主将になつてあらためて、東経大ヨット部というクラブ活動を考へてみた時、次のように思われる。今俺たちのクラブには、先輩達の残された四つの言葉がある。

- 一 規律
- 一 時間厳守
- 一 和
- 一 忍耐

の四つである。その言葉の意味を、俺は俺なりに理解、解釈してみようと、一規律とは、クラブ員としてヨットマンとして常識的な事、掟というものを守らなければいけない、それやさむぐ時は多に騒いでよいけれど一発こいて締めなければいけない、時は一発で締めるということである。

二、時間厳守、クラブ活動というものが団体生活で団体活動と行つものならば約束の時間を守らなければならぬ。一人でも遅れれば他の者は迷惑し、次の行動がうまく起こせないのである。

三、和、クラブ活動に参加してゐる人間は

みんなそれぞれ全国各地から、生れも
環境も違う所から集まってる
のであるから、互に良く知り理解
し合つて親しまつ中にも礼儀行
でやつて行くことという事であり
次に、四忍耐であるが、いやな事、
つらい事でも色々として、こよぶが
一度は必ず耐えてみて、そして
耐えてみて、はじめて耐えたこと
の向が、向んであるかを知る事がで
きるであらう。このように俺は解釈
しているのであるが、この四つの言
葉の意味を個人くで解釈して
みたが一回となつて、はじめて強く
楽しいすばらしいクラブになつて
行くであらう。

副将 木村順一
任期改選が九月に行なわれ、そ
の時裏で、我々は今年一年間の
プランを立て、来年の春、秋期
インカレに備えよした。幹部全員
が検討した結果、まず第一に我々
三年の団結を固く誓ひ合ひ、クラブの
初（まり）部員の縦と横のつながり
を、再度、しっかりしたものにしよう
と、ということをお第一目標にし、まゝした。
部員全員がそれぞれ東を大（ま）つと
部員いあるという自覚と責任を持
つて行動し一つの目標に向つて邁進
して行けば、必ずと念願達成の道
もひらけてくるのではないかと信じ
ていたからです。

学連のレース形式の改善
で来年の三月までレースがなくなり
今年は今クラブ作り専念出来る
ものだと思っていました。また練習
方法も今年一度中は陸上トレーニング
にして、セーリングにして基本をみっちり
やり、実戦的なものは来夏からと
いうことでありましたが、学連の方
から十一月下旬にレースがあるという事
を急遽言われ、再度検討しまし
たが、一応今回のレースは来年のイカ
レの勉強とし勝つことよりもレースと
いうものを知るといつかとして参加し成績
にこだわらず各自でそれぞれ練習では
得られない何かをつかんで来るといつ
心構えでレースに臨みました。

しかし今考えしてみると何が自先の不
さなレースにこだわらず初めに打
ち出した矛針の焦い臭が変な矛
向に傾いて行ってしまったように思っ
ます。その臭我々も大いに反省し
なければならぬことがあり、あと残
りの一ヶ月で何とかレースの為のブ
ランクを補うつもりでおります。一
年として来年からは諸先輩方が12
長年苦勞に苦勞を重ねて作
り上げた伝統を我々も銘じ、
決勝進出はもちろん、総合優勝
を目指して頑張るつもりで居候
ます。物質的な面でも技術的
な面でも、もう他のどの大学にも劣
らないものと思っております。

あとは精神的な面だけです

東京経済大学体育会ヨット部という
大きな伝統の下でレースに臨み、その

責任を痛切に感じ、もうこれからは

伝統で走らなければいけないのだ。

個人がどうの三つの言っている時代は
とうに過ぎたのだということを、私は

もう一度部員にたたき込むつもり

でいます。それで我クラブの一番の

欠点である精神面での弱さを吹

き飛ばし一母校の連中と同じ意

気込みでレースに臨めば優勝も決

して不可能なことではなくなります。

幹部の一員としてこの様な抱負

を文章にするということは、クラブ

全員の今後の可能性というものを

信じていなければ出来ないことであり

諸先輩への今までと変らぬ御支援

を確信していればこそです

今後ともどうぞよろしくお願いい

致します。

マネジャー 神川一正

今年度秋期インカレから部制廃止
A級廃止と共に、我がクラブ内において

マネジャー制を引くという激変の

時期にマネジャーという大役を任

せられたことに、戸惑いと大望を

感じざるを得ません。しかし引き受

けたからにはベストを尽くし、これがマネ

ジャーというものを自分なりに創造

してみたいと思っております。

諸先輩へと現役部員の良き

御指導御協力を御願ひ

致します。

47年度 部の沿革

- 二月 インカレ強化合宿 (長い長い十六日間 司令官ががんばる)
- 三月 インカレ強化合宿
- 四月 新入生歓迎会... 努力の末四人獲得 (20後一人退部)
二月合宿五回 23日に個人戦
- 五月 関東学生ヨロ小選手権大会 (不寐山森戸海岸) 5日~7日
S級: 3勝, A級: 3敗
成績 三部参加校20校中7位 楯1く7七位とどまらぬもの
この試合で"東経大ヨロ外部は"や"おび"を"さす"という気持ちを作り出す
- 六月 20~21日 新人強化合宿
- 七月 1日~10日 夏期前期合宿
A級に代わり2勝 470勝 一般購入
- 八月 21日~24日 夏期後期合宿
役員改選 (八期~九期へ)
主将: 小日向高志
副将: 木村唯一
選手 - 神川一正
27日 - OB戦 結局OBの勝利に終わる。

九月 18日~21日 新館=留学生センターにて写真展(部員募集のため)
この写真展で二人(一年生)入部

この月合宿3回(22日~27日, →この合宿は台風のため24日に
中止, 29日~10/2日)

十月 8日~15日 22日~26日と強化合宿. 24日に葉山に廻航

十一月 関東学生親善ヨット選手権大会(於葉山森手海岸)9日~12日

S級: 3艇. 470級: 1艇

審判廃止のため全校を四ブロックに分け(各ブロック9校)

総当たりで行なう

成績: 失格. リタイが多く惜敗で終わった.

十二月 三日 目黒ハーフェーンに於いて東経大ヨット部主催の
ダンスパーティーが開かれた

● 我が東京経済大学ヨット部の年経教

○ スナイプ 4艇 (19410, 19409, 1374, 10671)

○ 470 1艇

○ デイター 3艇 (1263, 1171, 1250)

○ テンダー 2艇 (Y15, デイター)

合計 10艇.

時は静かに流れていきます
 小、曰、何高志
 ぼくのまわりを
 ぼくらの乗せて
 星は輝いていきます、ひっそりと
 ぼくの上を、ぼくらを
 輝かすために
 ぼくの目の前には――
 見渡す限りの真暗な闇が
 あるだけです
 旅にでます
 ひとがかかえの荷物をもって
 この世で一番素敵な物を
 求め、旅にでます
 いつ終わるかかわらない
 旅に――

時は流れていきます
 静かに、
 星はひっそりと
 輝いていきます。
 敗れた！
 敗北者
 黒川由利子
 屈辱と後悔と、みじめさ、
 嘲笑する鋭い目と目
 いくつもの黄色い目
 太陽から目を伏せて
 からっほの頭を
 北風が吹きぬける――

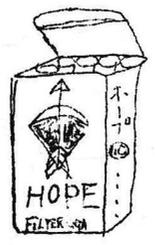
黒い血の涙と...
焼けた砂のような酒と...
そんなもので忘れられる
ものかノ
この嵐の中でよかれ
もがき苦しむのはごめんだ
もう二度と敗北者には
なるまい。

雑念

木村雅彰

お前は不思議な奴
俺はほんとうは
お前なんか好きなものか
大謙いなんだ
そもそもお前との出会いは
一年の最初の合宿だったな。

お前の事は、前から少しは
知っていたがあれ程までに
俺を苦しめるとは
思いもよらなかつた。
その後縁あって今日まで
つきあっていながら、お前の事
は、はなはだ分からな
い、向い合う度に違っている
微妙な点が違っている
それが俺の心をまどらせる
おそらく、これからも
ずっとなつき合おうと思っ
た、と正体を見極めてやる。



駄作一編

阿部謙一

鳥たれ小僧か大人になつた
 黄色いみかんの皮むけた
 花いちもんめー花いちもんめ
 楽しい楽しいジャンケンポン
 ジュンちゃんマーちゃんユリ子ちゃん
 みんな楽しい楽しいな
 明日の朝は雨が降る
 明日の朝は雨が降る
 明日の朝は雨が降る。

神川一正

ヨット部考

ヨット部はE.N.D.L.E.S.S
 でなければならぬ
 その為には部の体質を

ほとんど強化していくのが
 マネージョーの最大任務と思つて
 自分には厳しく無欲で部を
 考える場合は貪欲にならなけ
 ればいけないと思つて
 貴族のスポーツを学生がやる
 には必ず節制を必要としてくる
 これを忘れないで貰いたい
 最後に「ヨット部が部員の為
 に何か出来るかを期待して
 ならない」部員が「ヨット部
 に何をやる事が出来るかを
 考えて行動して貰いたい。」

1972年度 私の総括

応田 順

合宿日数 119日

アルバイトをした日数 40日

学校へ行った日数 106日

その他ぶらぶらした日 101日

今年 眠った時間 およそ 2500時間

飲んだ酒の量 --- 不明 ビール30本 酒2本
ウイスキー少々をいれたところか

最後に読んだ本 0冊

今年買った雑誌類 約50冊

今年読んだマンガ 約300冊

今年買ったプラモデル 約80コ

今年作ったプラモデル 約3コ

今年見たテレビの総時間 約6時間

今年聞いたラジオの総時間 約800時間

今年見た映画の本数 0

今年乗った自転車 約1500km

今年好きになった女の子 --- 無し

今年特に印象に残る人 佐藤 栄作

今年特に印象に残る出来事 テレビ番組撃事件

今年もらった小づかい 約9万円

今年クラブに取らせた金額 10万円+α万円

今年新たにできた借金 3万円

以上は月分についてだけ推定で書きよした。

ともかくたっへんな一年でした くだらぬ一年
一年でした、あつという間に過ぎた一年でした。

島を愛する

三年 木村順一

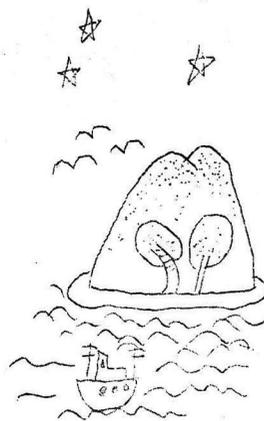
一、山高くして夢があり
山高くして歌がある
ニニ最果エの利尻よ礼文
君を尋ねて軽沼哀し
我等島を愛して旅を行く

二、桃岩たどる君の手に
エドデルワイヌ花開く
ニニ最果エの利尻よ礼文
花に口づけ峰ふりあおぐ
我等島を愛して歌う歌

三、岬に今日も鳥が鳴き

形沫たげくトドの島
ニニ最果エの利尻よ礼文
向を語るかあのカラコツチ
我等島を愛して北を行く

体験



二年

加藤慶太

昭和四十七年十月十日

晴 北の岡

周速四三六

菜山沖

スキッパー 広田、クルー 加藤

第一レース 午前八時四十分スタート



スタート十分前僕と広田は又
スタートライン上を三度三度と廻し、ス
タートラインと風かき考え、上アタート
真中コースと考えた。スタートノ
ドゥたい思い通りのスタートができた
上アタートと下アタートの真中辺に行くと
時下がるスタートをした。船がうなスタ
ートラインに帰るというにはありか。ゼネラ
ルリコールであえ。二回目のスタート
こんどはクー風が面をかきかきと思え
たが、また上スタートと詭念だ。とし
た。ほんとの船が下を自指し、上
がさうとつ開けた。二本はしめたと
びかりに上いっばいのところを自指し
た。おぐ後にはこのレーストップを取っ
た。日大の艇と、あと五、六艇ソる

だけである。スタートの
スタートして僕たち後ろにいた日
大の艇が僕たちの下に加速をつけて
きて上、下の状態が接触。
相手はいっばい上ったのである。
そのまま僕たちの艇を後ろに押し
こぼんどん行こせしめた。ここで考え
なげ水はけいけりりはスタートライン
は加速をつけて横切ることである。
真中コースを引いて僕たち上アタート
を三十位ぐるぐら回った。アタートになつて
五、六艇にかきかきしめた。下アタート
へ行くまで僕たちの艇。一橋が
かきかき合ひをいこるとき、下の牙を
二、三艇真つちぐ行つて結局追越さ
れた。一回目の下で僕は大きえほ

をしてしまった。×ニチャンを引くの
にあせり、ソレでセンターをおろさな
か
たのである。その後こんどはうちが
ホート、相手がスターホートで接触。
結局、二回目の上がたい四十位
この後何もアクションがなくて結局
三十九位でゴール。これが僕の初陣で
ある。あまりにもケースがあった。
まだまだ勉強の余置があった。一生
ゆすれることが出来な、初陣であった。

杉田清二
私かこの部に入部して二年間が過ぎ
まうとソレます。いろんな事を考え
るまうになりまう。学生とヨット・
ヨットと大学・大学と自分。ソレソ
れです。ソレソレ、いろんな事がありま
う。東経大の入学式に来て。あ、これ
モ手っただ、か部員募集のイトにサ
ンと自分の名前を書いて帰った俺。
今ではそんなうつくしく、ソレ態度は何
のソレソレ、俺ノ。
一年の頃は色気もなく、ヨットが終わ
れば学校に来て一息ソレ、再必ヨット(荒
崎)へと……

その日は苦しくても楽しい。そんな
気持ちでほとんどぞりた。

一年また一年と積み重ねたて行く経
験の重み……

世の中はいろいろな道がある
人間が選ぶ

私はそうだが道を信じ確かめに行く
一般的な人の歩みと歩く人

忙しさに追いつまなくれば時を忘れて進
んで行く人……

さうなんです世の中はさうなんです

嗚呼……

悪夢

山崎研一

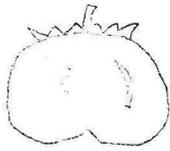
枯葉にうもれた山径を
静かに歩きたい——
あだけで
守らざが得られるだろう

葉を落した雑木林の中を

券り添って歩きたい——

それが

恋人と一語なり俤せだろう



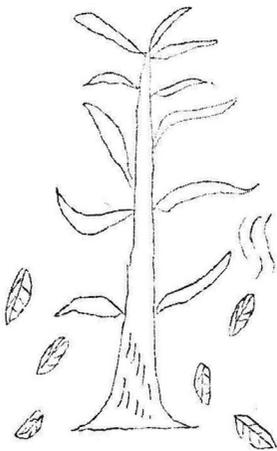
枯葉にうもれた山径を
券り添い、愛を語らいながら
歩きたい——
そーたら
もつと俤せだろう

ふと見上げると

熟した柿の朱が

ひとつ

青に映えていた。



山崎研一

俸せの朝

瞼が「もういいよ」と言う
 まですべて眠っている
 目が覚めた、でも起きるにはまだ
 早い一服しよう、お氣に入り
 のレコードも聴こう、暖いふとん
 の中で精一杯に身体を伸ば
 しながら、カーテンをあけ
 雨戸を開くと飛び込んで来る
 陽に目がまぶしい、シーツ
 冷気に思わず身が震える
 さあ、歯をみがいて冷たい
 水で顔を洗をう
 俸せな朝だからー。

井波幹夫

人間生まれ

死んでゆく
 人間でも持つ宿命
 いかなる人間である
 しがしこの間の人生ともいっべき
 過程が干差不別である
 この道違が人間の宿命を
 短かくもし長くもする
 私はこの不道理に失望する
 金の苦しみ、死
 地位の欲の苦しみ、死
 神はすべての人に平等に
 平等を分けることをせられておら
 れる

上総雄二

夢

人は大なり小なり夢があるものである。僕の小さい時からの夢は会社の社長になることである。そして上総コンツェルン社長になることであつた。それが出来なかつた時は総理大臣もしくは歴史上の大人物になる事であつた。しかし後者の方はよく考えをみると何の得もないのである。僕が二死んでから社会の歴史の本に名前が出来るもなんにもならない。それよりは前者の方がおもしろい。金があれば銀座のバーに行つてメチャクチャに遊んで。そして二口ろを何十人も作つて。毎日違う女の所へ宿りに行く。そしてハレムの様な

宮殿を作つて美女を何十人もそばに置いておくのである。そして余つた金を社会福祉にあてて人から尊敬されるのである。高校時代の終り頃までは本気でその思つた。僕がこの話を友達にすると、みんなは「お前のホラは面白い」と言つて笑つた。しかし且取近は後者の方も興味味がなくなつてきた。会社経営といつのは一度はやつてみたけれどそのヨロフの方はどうでもいいやうになつたのである。さしあつて今の夢は四年の冬休みまでに金を貯めてツアフルニールのカジノへバクチをして行くことである。これは絶対にする。と決めた。そしてもしできれば

卒業したら フラニスかイタリア
あたりの中地中海沿岸の都市へ
移住したい。むこうで喫茶店み
たいな店を持ってのんびり暮ら
たいのである。果して僕の夢はこれから
どう変わるのでしょうか？

合宿でつくった海の唄

山崎淳一

朝のはだるさを感じない暇もなく
外にもぐだす。今日の始まり、夜風に
さらされたマストがまるで刃物の森に肩に
くっ込む。――また今日が来てしまった
朝六時の浜辺。はまだ薄暗く町はまだ
眠りの中にある。その中に一つの生命を見る。
ある時は父のようにまぶしく又ある時は

母のようによさしく俺の小さな心に語
りかける生命を俺に小さな生命の息吹
を投げかけろ。大きな海を見る。
全身を焼くつくすように午後の
ひざしがあざむく。時々すべての
車がずると遠くの方で走っているよう
に頭の中をすべてかすんで通る。
今俺は走っている。身体で覚える
しかないのだ。もう一人の俺がの中で
叱りつける。俺の生命が今もえている
ある時は友のようにおおらかに又
ある時は赤ん坊のように繊細に俺の小さ
な身体をつつみこむ自然の中で
俺の小さな身体に試練をたたき、
つける大きな海がそこにある。

大山 田中太三

「男のおいどん」 田中展郎

今日も又下宿館にかわいい娘が越して来た
ぼ、まんおいどんには余り関係なかつた
気がする。おいどんにはトリとよかば、さ
がつちある。今日はラーメン屋のバイトも
行けん。きのう、どんぶりを四つも割って
しまった。おじさんのくゆるタマゴニケ入り
大盛ラーメンが思ひ出せる。
ばあさんが卵酒をつくってくれた。トリ
が俺にも飲ませると言うさ。おいどん
はむなく卵酒がすき。腹にこたえた
インキン・タムシが、かゆい。今は、
シマのパンツもだぶかたくなつた。
押入れを開けて替りのパンツをさがしたが
サルマタケの敏系殖がひどく使物にならん
押入れの奥に学生服が見えた。ふと
おいどん、こんな事でよかつたと思つた。

ま、手こぼしては着ようと服に替えた。
学生服を見ると涙がでてきた。
パンツでメガネをふいた。ぬれたメガネ
を、よう見えるようになった。
おいどん、何もする事なかつた。
ことにした。人間、寝れる時、寝な
せん。気がする。
おいどんの寝る間に、甲いどん、動
ちる。おいどんだけが取り残される。
気がした。そんな事、なかつた。
みち、水、おいどん、たつて、今にやるぞ。
田中半には、今日も何も起さなかつた。
パンツのふとは、寒さが身にしみた。
おいどんの目から、又、なせかしら、
涙が流れた。

俺と国

田中展郎

風よお前はなんと良いやつだ
お前は俺の心を焼やしてくれる
お前は俺に素晴しい生きがいを
与えてくれる

人まの苦しさと楽しさを教えてくれる

俺は そんな お前が大好きだ

風よお前はなんと憎いやつだ

お前は俺が頼んでも来ない時がある

お前は俺が来るなと言っても来る時

がある 時には俺を苛立ちせ

時には俺に恐怖を与える

俺はそんな時のお前はあまり

好きではない

でも、お前は良いやつだ

俺はお前がいないと何も出来

ない、お前は俺の親友だ

俺はお前をいつも待っている

二人で一語に行こうではないか。

航路 田畑博幸

俺は もっと強く

生きてゆきたい。

今の俺は 甘い

今の俺は 可愛い

でもそれは 俺の未来を

無に してしまおう。

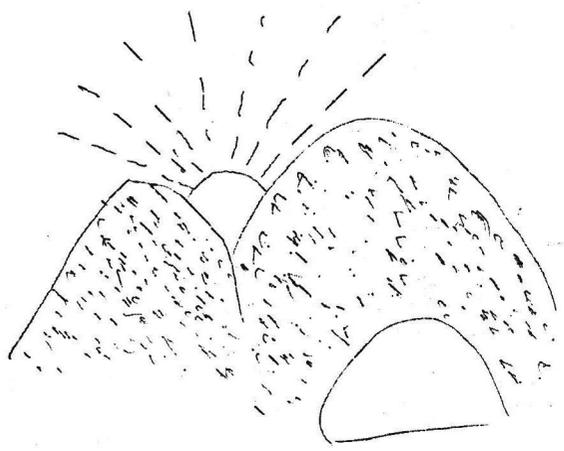
もっと 辛口いみ辛口しみを

かみしめ 少しづつ 歩き

はじめよう。

今の俺が なくなったら

未来の俺が なくなると



思える ように……

俺は俺の 為めに

今生きて

いるのだ。

詩一パン 田畑博幸

吸てる煙草がうまい

というわけではない。

冷たい下宿が嫌な

わけでもない。

ヨット部やるのが

つらいわけじゃない。

俺は止まっている

だけじゃないか

座して黙して

目標を探しているのだ。

知^口はけバ魚がたつ

情に情をさせは流さぬ

意地を通せば

穴躬屈た

青木 良和

春から合宿、合宿とおめりてきた。

今年の合宿がすべておやつてしまった今、心の中に何か大きな穴があいたような気がする。それほど、おれにとってヨット部は大切なものだ。

FIRST TIME (初めて乗継)

初めてヨットに乗った日。僕は葉山の合宿所でサラを洗っていた。宮田が「舟に乗せてもらえろぞ」というので浜へいそいで走っていった。

胸がワクワクする。何を考えていたのだろう。儀装品の名前でも口の中でモグモグいつていたような気がする。

浜に出る。波うちぎわにスナイプがおさえられている。スキツパーは広田さんだった。「お願いします」と言って舟に乗る。どのようにな動いてよいか分かつはすがない。「セインターを降ろせ」この一言の意味が分からぬ。広田さんに指さされてわかった。それは

センターボードの事だった。

舟が岸を離れていく。タック

ジブの練習をする。体重が

あるせいか釣くたびに足もとで

グレーティングがボタンボタンと

音をたてる。まわりの景色が

ぐるぐる回転する。鳥居が

見えたと思ったら葉山マリナ

が見え、江の島が見えたと思っ

たらゴート葉山が見えていた。

しかし、自分の乗っている舟か

風の力だけで海の上をすべつて

いるのが感じられる。下を

見ると海が走っている。

すばらしかったあの五月の

一日

ヨットと僕

北口隆史

僕は大学に入ってから

何となくものたりない日々

を送っていた。勉学に専心

することは考えていなかった

ので、要するに何か打

込みにかかったわけでは

ヨット部にはいったわけ

僕のも思っていた通りのす

クラブです。やはりクラブに

参加すると、一般の学生には

経験できない、有意義な事

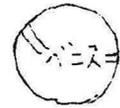
を体験できるので、ごく

自分にとって良かったと思

う。これからも先輩をみなら

挫折しないで初志を貫きた
いと思っております。

さくぶん

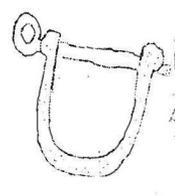
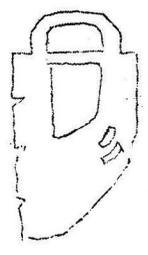


佐塚真吾

その日俺はパチンコを
て夕暮れ道をとぼとぼと下
宿に帰った。すると下宿のバ
アさんが俺にすぐ静岡へ帰
るようにと言った。オヤジが
倒れたのだ。俺はすぐ帰っ
た。地震で新幹線がおくれ病
院に着いたのは12時頃だった
ろうか、病院の中はひっそりと
寝静まっていた。看護婦に聞い

てやっどオヤジの室を見つ
けた。中から母が出てきた。
結果はいいらしくもう寝た
ようだった。それから数日の
間は病室に入れなかった。
オヤジと会ったのはこちら
に来て5日ほどしてからだ
った。オヤジは比較的元気そ
うに見えた。しばらくの間
家と病院を往復する日が続
いた。そして俺はクラブの合
宿に行った。合宿を終え再び
郷に帰った。それからまた
同じような日が続いた。ある
日オヤジは俺に母と付添人
を変わるように言った。俺

はその日母と代わりオヤジの側に居た。オヤジはいろいろお話をした。そしてそのあした、オヤジは死んだ。



宮田 晃

ヨト^上部に入部しました。一年もあと一息です。二回のインカがありました。丘で走った二回のインカでした。アマチュア必登録もせりました。

たがら yaccheto

送ってまよ

ヨトにも何回か乗りました。本を何冊か読みました。

でもまだ全然分かりません

髪女の毛も切りました。

昔のことを思い出していせでた。

食だけは炊火けるおになりました。

たまたまそれだけだったのかも知れません

つらい一年でした

でも人に聞かれたら

白黒しかつたといかえんは私です。

北村典聖

ヨット部に入つて

夏休みの前まで体育系クラブに入つた事がはかつた僕でした。が、今ヨットしたギツカでこのクラブに入つた。

最初は不安も多かつたのですが今では少しづつヨットに対する考え方も変わり大学生活での貴重な時間を有意義に過ごす様になりました。心が決まつたせいかわ髪の毛を切る事をやがつていた僕でしたが先輩のすすめもあり切つてしまいました。まだクラスに入つて短かい時間ですが先輩に負けず来年は二年に入つてくる一年には恥ずかしくないヨットマンになりたいと思つています。最後に床屋に行つたのですが、まだいただいてないのでその点

よろしくお頼み申します。

来年こそは我ヨットクラブが素晴らしい成績である様に皆で頑張らうではあります。

題なし 菅原正二

何か書けと言われても別に大した事を書ける筈もあるまいまあ、あきずにおつきあい願えれば光栄です。書けと言う方には書かねばならぬ年生しかたがなからやはりリクラブの事をその他シロメツレツの決めてみたいと思ひます。よくも自分から進んでめんどうなものに入つたと思つた「何だ」と先輩エマに痛くおしかりを受けようであるが、私は数ヶ月たった今でも不安におのかずにはいられたのであります。それはあまりにクラブの負担が大き過ぎるからです。時間的にも

金銭的にもニーズニオフになつた今でも
非常に楽しいが。ペーを催す事も
目下その券を売るのでやっきとなつて
バイトもろこにできない。はたまた券が
売り残れば滞納金は涙が出るほど
うれしく急上昇。不満をこぼそ
うものならだれた。てそつなんだ
とヤリ込められる。しかし私
はそう言う言ひは嫌である。
負け犬が互いの傷口をなめあつて
いるよ。でそんな事はどつでもい
い事であるが金欠病とつやつは
マドシをしめなかりカシのように困つ
たやつはづもある。たまにはほどよ
いづ。又と二人して仲よく連れ
だち映画館とーしやれ込んて

みた。ものであるが、しかし私は言
うのである。甘さをセーブ。デパートし
にがみほして一言アウソとして魂の郷
を忘れマルクスを手にする心のゆとり
さええない。平生を作ろつておもむろ
にふかすのがハイライト。貴重な時
間の中に自分の存在をつぶしてゆく。
ああなげかわしや郷の父ちゃん母ちゃん
が聞いたら泣いて悲心しむ事では
しよつ。今欲しいのは本当は金では
ない心のゆとりなのである。
そう言つたらうそになるでしようが。
金はともかくとーして心のゆとりな
どとは三年になればタダでできてくる
とこつからたゞしたものである。
とは言うもののナンダカニタ
落ち着かない生活をして

何になる。この調子で大学を卒業して
(いや卒業させまくれるかくれないかそれ
が問題である(ハムツグより)何になる。

そりゃあ、あはた、男(トキイストン)ヒトカド
の人物と何うなくとも人様にはずかしく
はい並の上くうへは人間になりたいほどと
大それた考えを持つものでございませう。
運命とは奇なるもの、私は入部して、
どういうわけかその一員である。

打算的は考え方がおもしろい、が、大学生活
をヨットに費やし、何を求め、当然その結果
として、何が残るのか、暗中を模索する
思いで、繰り返しているのです。

しかし、やるからには、私は信じた。
我、東経大ヨット部を、そして先輩を
そして、どうも彷徨する私に何かを与えて

下さる事を、いやそれは自分でつかむもの

は、のかもしれないが、でもどう表現しよう

とそれは車はカソリンで走り、カソリンで

なれば車は走らないのと同じなのである。

ところで皆さん、朝晩はめつキリ冷えます

ね。東京の空がおもしろいもので、秋には星

の輝きもちがうて来ますね。令酷はまで

に斗影は、落葉の上、雲、寒むと注いで

いる。もう冬がそこまで来ているのを象徴

するかのよう、そして黙して語らむ樹々

は、自らの身を枯らし、これから始まる

長い冬を告げているのでしよう。なびと唯し

も秋も深まるにつれ、ロマンチックな自分へと

メタモルフォーゼを、試み読書にふけり長くなっ

てくる今日、近頃ですが、私にとつては、天高

く馬肥ゆる秋、食欲の秋、なのです。

いひかつペが銜へ出れば道端でマクドナルド
のハンバーガーに舌づつみを打ち、なんと云つて
も嬉しいものは、ホカホカの肉マシな
らぬアーマンである、これなどを食
らふ時などは、最大の悩みで
ある虫歯の痛さなどどこかへ行つ
てしまふ様です。そして腹い
っぱい我が谷戸荘のめしを
食う。ニニのオマシは肉料理
がうまい人ですよ。甘味を欲求
が満たされる事は実によい。
腹が減ると人間考え方がいや
しくなつていがん。ガツガ
ツしても結局どこかで損を
する。ニの莫今の所苦勞

はないようです。くだらぬ不
満をゴタゴタ気にくわねヤツ
たどお思いでしようが宜しく
お願い申し上げます。
大平洋のように広く大らかな
気持ちを持ち続けたいと思う
私です。
思ひあまる乱文乱筆お許
し下さいカニコ。

合宿所コラムこの一年

。470、部員に愛嬌ふりまく

命名はいつ、？

。マキユリ、横井さんと

共に復帰

目下活躍中

。艇庫二段式

穴を掘らせると

皆抜群

。葉山合宿所移る

山田さんの顔みれず

食当テトガツクリ

。マラソン夏の陣

一位 田中展郎 (三年)

二位 神川一正 (三年)

三位 加藤慶太 (三年)

。夏合宿芸能大会

一年佐塚真吾迷演技

優勝に輝く

。二年一年初体験

静運動

皆階段を登りました。

。学生ラウンジでヨットの

写真展開

一年生北村典聖

入部

菅原正二

。O.B 遠藤先輩の結婚式に

臨む

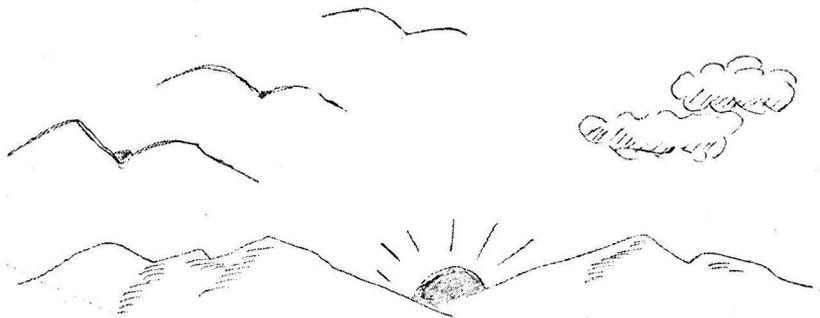
ダンスパーティ、目黒パーク
レインで開かれる
好評のうちに幕布！

クラブ全員で戸塚へ
バイト徹夜で頑張る

合宿(夏期)芸能大会

リネ・ダンスの部

一年宮田晃 六十cmのバーを
クリアして見事優勝ノ



S 45. 10. 19 曇のち晴れ 風速7m

北の風

食当 山崎(研) 杉田

朝食 納豆 もやしのみそ汁 漬け物

昼食 野菜いため

夕食 カレーライス

午前 19409 吉田 阿部

18722 富田 木村(順)

1263 長谷川 永山

1171 川島 杉田

午後 1171 宮崎 山崎(研)

川島 田畑

永山 小日向

吉田 阿部

合宿所だより

朝から風が強く乗艇しないのかとあやふまれたが
ハ時半乗った。風が強くてヒールをつぶすのがとてもつた。
よく陸トレで腹筋を鍛えるけれども今日はとても「もも」
がとても痛く感じたので腹筋も大事だけれどもももにも水
耐える力をつけてもよいのではと感じました。

午後はボートの中だけで乗ってダックジャイブの練習
で終わりました。船に乗らなかった人は陸で「艇庫
の建設につくしました今は交代でみんなバイトをし
ているので人数がすくなくなっています。

一年は常に5人くらいです。

食当がすぐ回ってきます。食当がいやだというわけでは
ありませんが大へんです。(杉田)

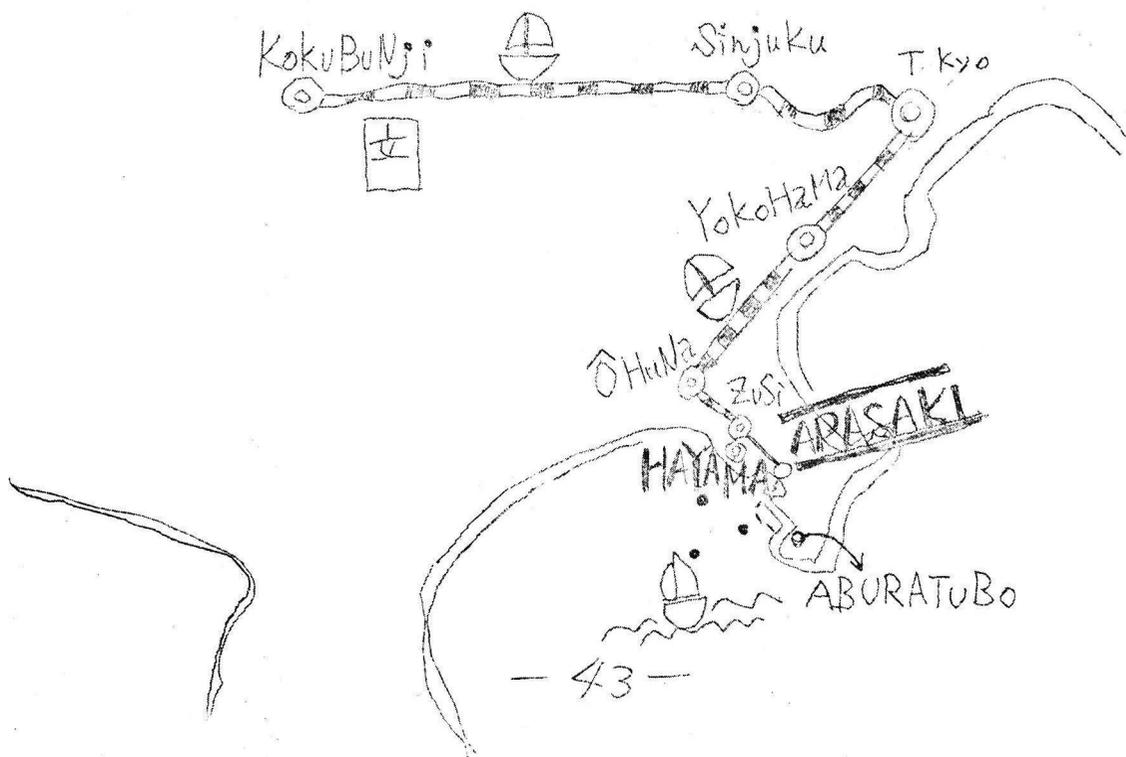
S 47. 10. 15. 晴れ A.M 北の風 1~2m
P.M 南の風 10~15m

午前のもの足りなさが午後の強風でいっぺんに吹き飛ばされた。自然の神妙さと偉大さ、恐怖を感じた。タンカーがよかたのためと風向が急に変わった為 10671, 19410 が流される。

午後ほ張り切っていたが「あがり」がポイントの内て言いつたされた。「あがり」の通達までの各艇の処置に多少の違いがあった。

ヨットに乗るに構えとして臨機応変の心が大切だと思った

一週間の合宿、バイトも入って本当に御苦労様でした。明日の為にその一としてよくやっと思った (ID 21)



現役部員の紹介

三年

小日向高志 (新潟)

第九期 主将

一応一応が口癖

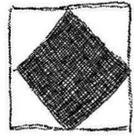
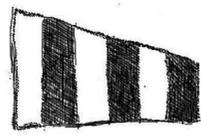
スポーツは不能と評判

ボートリングの腕もなかなか

問題児をかかえて頭を痛める

幹部の一人 話のわかる

善玉キヤップテン



木村順一 (利尻)

第九期 副将

厳しさ優しさをかね据えた

善玉先輩 焼き鳥が好物

と聞く コンパで昔の元氣

ほどではないが三年生の看

板を受け持つ

神川一正 (広島)

第九期 マネジャー

滞納金ににらみをかす

鬼のマネジャーと思えるが

人情厚い話のわかる先輩

競馬菊花賞もドンピシャ？

阿部謙一(秋田) スナイプ
言わずと知れた雀道一筋
皆が知ってる競馬一筋
クラブ内でも屈指の酒豪
男は黙って飛 後輩を鏡
く見つめる羞子(先輩早)

木村雅彰(北見) スナイプ
多忙な仕事ストーカー
クルーニ年井波との息も
びったり 木村順一先輩
と同棲中・・・？

黒川由利子(千葉) スナイプ
女子部員勧誘のがいもなく
依然クラブ内の紅一点
幹部の気づかないう所にも細
心の意味をばらうとこころは
クラブの良き女房

広田 順 (東京都)
プラモデルが趣味はおまりに
も有名 コーキングの名手
クラブ内のはやり言葉の
製造は木村雅彰先輩と争
うほどの名手

異端児 荒崎八人衆 (三年)

◎井波幹 (富士)

酒癖・億変 麻雀の歌

麻雀の腕 セミプロ

性格が隠和 理論派

◎上総雄二 (高知)

酒癖不可 奈良の大仏

コブラツイストに強い

話術抜群 努力派

◎加藤慶太 (秋田)

酒癖億変 校歌

腕相撲 身丈百八面コシキ

とにかくうるさい 理論派

◎田中辰郎 (石川)

酒癖良 オバQ

脚力抜群

起床⁷に弱い

コンビでは一夫スター 努力派

◎田畑博幸 (熊本)

酒癖不可 青い山脈

顔で売りのもの

九州男児

性格隠和 (フリーク) 派

◎杉田清二(東京)

酒癖不可 また会う日まで

フツフツ 板群

蒸さで肉迫

酒が入るとグチる 理論派

◎山崎研一(新潟)

酒癖可 アホといつまでも

ヨット知識板群

最近女にモテる 理論派

◎山崎淳一(青森)

酒癖不可 CM サクラカラー

プレイボーイ(他紙)

とにかく女々女々ともてる

最近女性恐怖症がみ努力派

◎名前(出身)

酒癖(評果) ココバの持ち歌

特技 特長 売りもの

短評 ヨッピー

田の東経ヨット部 八血

やるとヨッピー一人前

苦しまず 楽にさかッ ココバ

コンパ 始めリ ヤ止まらぬ

春は荒崎 春一番

夏は荒崎 どでかい夕日

秋は荒崎 順風出帆

冬は荒崎 一休み

田の東経八人血

うちのつらつらの屋白眉

石手荒崎六人衆 (一年)

青木良和 (東京)

クラブ一の巨漢酒癖不可
六人衆のまとめ役 礼儀正しい
陸トシの成果で浪人 時のス
ンがだぶだぶになったと聞く
レーサーとして頑張ってほしい。

北口隆史 (旭川)

クラブ一の無口 酒癖良
頭もパーマできめる ダニ派
最近ステレオにこる
クラブの中で個性を売って
頑張れ 誠実だが売りもの

北村典聖 (札幌)

クラブ内の人気者 酒癖可
通称(牛丸 結作)
断髪によりイメージアップ
小柄のわりに根性あり

佐塚真吾 (静岡)

クラブ一の問題児 酒癖良
勝負は勝負とウルサイ
学業にもう少し力を入れる
といい男だが
元気で売りもの

菅原正二 (岩手)

クラブの切れ味酒癖不可
白黒がはっきりしてゐる熱情派
小柄のわりにいい体をしてゐる
礼儀正しい 固性派

宮田 晃 (鹿児島)

クラブのマスク酒癖優
不言実行 スプラインス抜群
巨漢相手の陸トレは立派
体重をつけて頑張ってほしい

団の荒崎六人衆

苦しんで続く一年間

飯を食い張船かち

皆が歩むこの道と

笑いとファイトでぶっ飛ばせ

岡東経三ト部を

モト 甘空からみんなを

かっいてやるぜ

ボエム・オブ・Sea

長谷川康二

むかレ 貝の中かこ

ウーナスがうま水出た様に

今 光りの泡かこ

いっさうの小舟がすべり出した

追憶の影 未来への祈り

波のように夢はさこ

また云り

海に静寂の刻が訪れた

悲戀

君が抱ッた偽りの歎は

フかのまに消えてしまつた

君のすがたはかりそめの

夢のように

私の心をかきめて行、た

朝はおとずれ 陽は輝き

狭霧は消えうせた

始まつたかと思つてもなく

はゞ消えうせた二人戀

雨月紀行

宮崎幸雄

船は一昨日の位気圧のせいか

はやくローリングしてる ほんごとの

船客は横になつた 五十嵐と

大竹さんも船酔いで寝てしまっ
ている。五十嵐と永山と私は昨晚遅
くまで四年間避けて通ってきたことを
議論したのだった。きしが五十嵐の
船酔いの原因なのだろうか。私は永
山や佐々木さんと談笑しながら、ふと
旅への期待と憧憬で胸が緊めつ
てくる自分を感づいた。でも私は
永山よりよつにこの旅を特別意義のあ
るものとするつもりはなかった。
今朝は船酔いと会い、その後あめをた
くどくはあったが、新潟市内を案内して
もらった。でも私には十分であった。
しがい北原白秋の詩「舟は荒崎向うは
佐渡よ、……」が書かれています。碑と
蒼浪と一を日本海に、柳の多い

街並に感づいたものは、一体何であつ
たのだろうか。

やがて船は西津港へ着いた。ターミ
ナルから客引きの女に案内され、ある旅
館へ向った。しかし、その旅館といつ
のは古きや汚さを隠すために、ハイキを
塗ってあり、さかばんやもとろごころけ
刺がれこまっていた。さうして窓には
奇異ともいえる梯子がはまっていた。私
たちはそこを辞した。後で聞いたところ
によると、昔は遊郭だったとのことである。
私けさの旅館に不似合ひな金細のミツチ
箱を眺めながら、始めて佐渡にいる自分
を感づいた。

やがて旅館を見つけた時は、もうとふ
りと日が暮れこんだ。今度の旅館はきれ

いかな方であった。しかし夕食は調理場と一緒になった食堂でとらねばならず、ささやかな夢は諦めねばならなかった。しかしかき語りく心遣いをしてくれる乙女の姿にまだ見ぬ新妻の姿がオーバervラッフリーツのくのを、ある感慨をもち眺めつた。

夕食後 公会堂で佐渡おけさをやるというので買物がたら出かけた。観光シーズンを外れた通りには人きまばらで立ちならぶみやげもの屋も何となく寒さを感じさせたにすぎない。それでも彼女は楽しそうにあちこちの店屋を覗き回っている。そのために私たちはいつも彼女らを見失わたりようとしていなければならなかった。かくて、彼女らはたくさんの

みやげ品を抱え、五十嵐はパチンコの景品を持って公会堂へと回った。そこでは鬼大鼓の勇壮な舞いに大鼓、源平軍談の「義経弓流し」かごとたという相川音頭、そしておけさという遊女の哀感を詠ったという佐渡おけさを十分に堪能した。

翌日は般の時間のニトキあり、朝早くから小大閣湾、佐渡金山、太平高原などを観光バスで見えてまわった。平安の昔より堀り続けられてる金山には死んでいった幾多の流人の怨念が不気味さをもって迫ってく子のを見たのだ。それは金山がまたうらたである。救々の悲劇を訴えようかのようであった。しかし太平高原から眺める佐渡

は紅葉の美しさを誇り、煙霧のかわ
たには加茂湖が水たたえており、日本
海は蒼浪として佐渡はあくまで美しい
のであった。

間もなく連絡船が出る。甲板の
スピーカーからはかすかに佐渡おけさの
メロディーが聞こえてくる。日常の何か
から逃れるための旅は、結局旅のもつ
ロマンチズムと押し流され、より強い
現実への掛け合いをもたらし、たに過ぎ
ない。あと何日か後には、同じように都会
の喧噪の中を学校へ通っているだろう。
私は何かを確かめるように、もう一度佐渡
を見に行った。

完

短歌 「恍惚の四年間」

宮崎幸雄

荒崎にゆきて初めて知りもした
海のつめたさ、ヨットのフラスコ

夢をこぞ賭けてみんかな。パチンコに
破水し後の、腰の痛さよ

かくてまた、虚しく去りし一日よ
思ひ侘し、我はマスかく

州柱を、虚しくさうす、城ヶ島
海は荒水にし、房総はるか

佐渡の島 水替え人夫はあな悲し
坑道暗し 我は怖しけり

拙作

宮崎ユキ雄

人はいろいろな顔を持つ。その
顔をしてこの地球上を徘徊している。
彼らは一体何のために生きているのだろ
うか。

彼はこう言うだろう、「生きているから生
きている」と。また彼はこうも言うだろう、「
」諸々の欲望を満たすため生きている。と
！かしこの広大で限りない宇宙の中で

人間が存在するというのは、いったい
何の意味もなさないのではなか、人間
がいくつ生きる目的は云々と言ってみ
ても結局どうにもなるない

人間は結局死ぬだけの勇気がなけ
れば、死ぬまで生きていくがたいだろう。

R子との愛について...

吉田三良

物の喜びや輝きは物そのものが増す
まうに増してゆくが、おまえの愛は
外から見て小さくなる時に大きくなるの
だ。おまえと俺という二人の人間

の間には愛が生きています。

この愛を測るつとめるものは、我々二人の

間の距離を測るねばならぬ

しかし、二人の間の距離が大きくなれば

なるほど、愛もまた大きくなるのだ

だがしかし、距離が小さくなると愛はそ

れにつれて小さくなる

小さな愛、近い愛は俺の笑いを誘い、

大きな愛、遠い愛は涙を誘う

「まよものは日々にくとし」というのは誰だ、

あまえが俺から去ったあとで、愛がそんなに

色あせるのなら、毎日俺を泣かせるもの

は何だろうか？

もしそれがひたすら愛でないことなら、

。。。。

『ヨット部 教え歌』

吉野三良

三つや

人がよかる船かづぎ

この船おんこの宝物

二つや

ふんだりけつたり一年生

朝から晩まで食当よ

一つや

見渡す限りの青い海

ハイクアウトもなんのその

四つや

ヨット部入ってオモてるがい

聞いただけやぼだせそんなこと

五つや

いばり散らすは上級生

早くなりたや四年生

ろくろ

無理は承知で出てみたが

自然の力にや勝てやせぬ

おまけ

お水たち

東経の急上り

涙見せるは勝利の日

とろろ

何がこのかヨット部は

四年もいるバカになりバカ

ハム

止めた時もあるけれど

勝利をこのキコつかぬま

ろくろ

苦しい合宿終った

可愛いあの娘が待つてる

ろくろ

どうどうやっただせおぶん

見とくれあいらの晴れ海

二の一番教室

五十嵐 誠

今日は後期初めての講義を聞いている
相相うらす(いやふはかにも常時授業
を言っているよだが学生うーく思われたいと)
自分も消極性と取っかかす席はずっと
後のオである人間というものは何かという
と後のオと居たがるもので、それを他人に背中
を見せているだけであつて、これにても同じだと
おぼしめしているのだが……
またそれに知えて教授の声が聞えなりの
である。そんな事では性がなりと思つので
あるが自分の性格がうーかたなりという
点、ご協力してしまつたのである。という訳で

私は講義の内容はまったくわからなかがニ
で教壇の上と立って我々に何をしゃべつて
子のかさばりゆかふなり教授の事や教室
における一見真面目そうな学生たちの
事を書いおきたいとおもつ。
それと、そのモニの教授の声は体と同じよ
うに小さいので、いやとなつてしまつ。それと
まったく大学の教授という顔をうらやがる
(いやふは私の失言である)他に仕事を
とすれば新宿のサドワイツ子コニカバ
の呼子であろう。確かあのまうな顔
をしてゐるのが、いやとつたまうな気がする。
あつたはなうなりが……。またどの教授
にも言える事だが私をたいと頭の悪心ソ人
間に対して、まうとゆかりやす、字を黒板
に書いてもろつたものである。後の席の

この教授は、いかし講議の内容があまりにも固すぎる。もっとユーモアのある話し方をすれば、みんなおもしろがるだろう。(一ヶし大学の講議はおもしろい。で、終つて、もうのは、いけなりのだろう。かおもしろい。おもしろくない。でも、大学生の頭次第かも知れない。) でも、家に帰つてもこんな調子でやるんじや、興ふるや、小供たちがおもしろくない。だううな。教授は講議の話を、私にこの文書を、書きこむ。その講議を聞いている学生たちに、混ぶって、さう、眠っている奴が出た。誰も眠らせないで、興味を沸かせ、研究心を燃やせ、と、教授はいけなりのかなあ。それこそ、私みたいな学生がいけなりのかなあ。あまりにも自分

勝手かも知れないのである。それにこの教室の学生さんたちの中には、一生懸命教授が黒板に書いている読みにくい文字を写している人も、たか、し、しか、私には関係のなり事なのかも知れない。みんなと同じまうじ、机に向かたり、教授の姿を見たり、している。私の場合には、自分自身で何かを今書きこむという気がする。(こんなくだり文章、ごま) が、一、他の学生たちは、ただの自動筆記機械だ、という気がする。みんながみんなさうだ、とは思われない。一、この中の何人が、この講議の専門家になる、さうだ。私には、ただの教養と優越感の植えつけ、一、か、思わぬ、確かに、大学の学問、さうのは、さ、二、分

こ始まるものかもし水はソケルど、夕
板に書かぬる文字を守すここにとれ
ほど多大の人間とこの価値があるの
ごあるつか、私にはゆかふなり、つまり
あまりにも教授の声やその視線が
遠すぎるといである。

孤立無縁の詩

永山俊郎

新人イニカレ、勸迎ユニバ。
就職試験・新入生勧誘・北海
道旅行・つたえちん 城ヶ島
クルーズング・葉山マリーナ・荒崎
ガーデン・学園祭・戸塚グイト
・追いで出レコンパ・マート・質屋
三舞・油壱ホープ・山田さん・
ロン・佐渡旅行・立ちんぼ・陸トレ
ゴッゴ大会・キセル・秋本商店
京和散策・生協・大盛スバゲイ
渡壁造船所・魚寅・枡湯・ス
イカ割り・ガセラー・個人戦・

静子さん 成人式・シーサイドコ
ース・手淫・アラ・魂・上野公
園・持田・ラウンジ・高円寺

京都散策

永山俊郎

・ 年経はば 花魁館おいらんやも 文化賊

・ 知恩院 うぐす廊下 渡りたる
太めのガイドの 音こそよけれ

・ 化野あいのの水子地蔵の やるせなさ
赤子には水す 人間になれず

・ 先斗町 終り香淡き 舞子さん

・ 道聞がば 張りあるまで 敬えたり
ほどこ歩みよ 尼僧の道を

北海道旅行

永山俊郎

・ さいほての 駅におりたつ 旅人の
言葉 明子し 足どり軽き

・ 淋しき石狩川に 添い立ちぬ
ホップ並木に 夕陽が沈む

・ 国尻を臨む岬に 書かれたる

白いペンキの かりかほしき

・ とぼす水 淋ー淋ーや

スコトン岬

・ 手を入いこ ちーかめヒーヤ

オホーツク

・ 夢いだき

海峽渡り

夢破れ

海峽渡りし

幾多の人が

・ 名も知らぬ 駅にありをう

何処とも

あまなく歩く 旅の嬉しさ

・ 海を知ら 酒を飲めやぞ

暮れにけり

我が青春に 暮は落ちぬ

コトと酒と女と……

川島健太郎

「見聞の關係も無いようだが、実は現代に生きている我こそ青年にとつて、いや、少なくとも私自身にとつては、これらのものは大なる関連性のある種の魅力を呈して私の内部に迫つて来るのである。言い方を換えれば、これらの「ものは男にとつて（注）正常且つ健全なる場面に限らず、それ自体、主体を熱狂かつエレクトさせ、何かを有してあり、それは陶醉の世界へ埋没させ得る事が充分可能なるものなのである。いや、そのものに自身、曖昧ではあるが、ある種の明晰な問題提起の要素を充分に含んでいるように思われる。少なくとも以前（私）の私（大学へ入った当時）の生活には何の体的質的変化も起てはいなかつたし、一日依然として一人でひそかに下宿に

とじこもり「現金」の接触のなさに苛立ち、おこ持てはいたが、確かに漫然と過して、ただに「喜ばない、少くとも無駄な時間、だけが何の手だてもなく私の前を通り過ぎて行ったようだし、私々心を確かに動揺させ得るものはなかつたようだが、これらの「ものは私を決定的に変えたようだが、少くとも、私らを介して（つまり、誰かが見当らないうたが）私をして「何か」を捉えるべき、いや、何かへと駆り立てた唯一可能な、そして正当な動きになった、ということだけは確であつたろう。

痛快ノ、国士ニ無双、親は面待

W 役満 体験記

「私」と長いテーマをつけてしまつたが、私は私の決して曲意富とはいへない

うちにニ在り、東三局ぐらうであつた
 うち、私に親が回つて来た。今考えて
 みれば、何ともすこい配パイが来たもんだ
 と、手にアセを握り、顔面は青くひき
 かつたかも知れない

そこでその時の配パイを圖に示してみよう

東 西 北 南 中 東 南 西 北 南 中 東 南 西 北 南 中

こつこつという手である。当時、私は国士
 無双という言葉をこそ知てはいたが、どういふ
 具合に上るか、よく分らなかつた。まるで
 へボの時代であつたから、なんともひどい
 配パイが来たもんだと半ば上るのを
 あきらめていたのである。そこでなんと
 オ一手にして、を切つてしまつた。では、いか
 にか振リテンの始りである。だが次に
 ツモったのが、なんと南。そこで、私ほ初めて
 国士無双という手があつた。事に気が付いた
 次第である。(おそまつ)

そこで内ハハラハラしながら6・7巡
 ムジツモが續いたのち、巡目に九の
 大望のテンパイである。だがその時の捨
 てパイとテンパイを、こゝまたおそまつ
 ながら公開しよう。

捨てるパイ

東 南 西 北 南 中 東 南 西 北 南 中 東 南 西 北 南 中

この時、私はもう終えていた隣の長谷川
 に、この手を見てもらつたところ、なんと
 彼はあの細い目を増々細め、私の手の
 内と捨てるパイをすじまじと見つめて、
 ではないか(その時、私はなんとか、国士無双
 らしい手になつた)と思つて、いたが、實際
 の話、どうすれば上れるのか、よく分らな
 かつたのである。後に聞いて分つたのだが、
 こゝれが、かの有名な「国士無双」の面持
 と、いつやつた、た、ら、し、と、こゝれが、
 なんにも、枚も上り、パイを切つて、いる、では

なにか大フリテンである。
ツモ上りしか望みはないのである。そこで
私は猛然？ヒリーチ

なんと夢か？まぼろしか。運が強いか、
ふだんの行いかいいというか一発ツモ
である。点数はなんと9オモテ点
同ア然である。

かくて私はフラスコの火台に乗せ大逆
点を演じたわけである。最後にこの語
が信用出来ない読者はア、そく

「トリゲ」に行ってみなさい私の名が
誇らしげに壁に張り出されている筈
である。オワリ

四年間

ほんとうに

御苦勞様

でした。

編集後記

二の度、碩見の制作という極めて意義ある仕事につかやそのほど喜びしく思っております。

終始、種々の問題が生じましたが、編集部員一同の協力により、完成させることが出来ました。和を見出し、たようと思えます。

制作にあたって御多忙の中を御寄稿して下さいました。OB、先輩のみならず、また制作に協力してくれたい編集部員一同に心より御礼を申し上げておきます。最後に毎年、ページ数は増えているのですが、OBの皆様の手書きのソレを添い添い期間がみりかたを三三が非常に残念でありません。第四号はそれ以上の本のであると期待して編集後記をします。

昭和四十二年十月

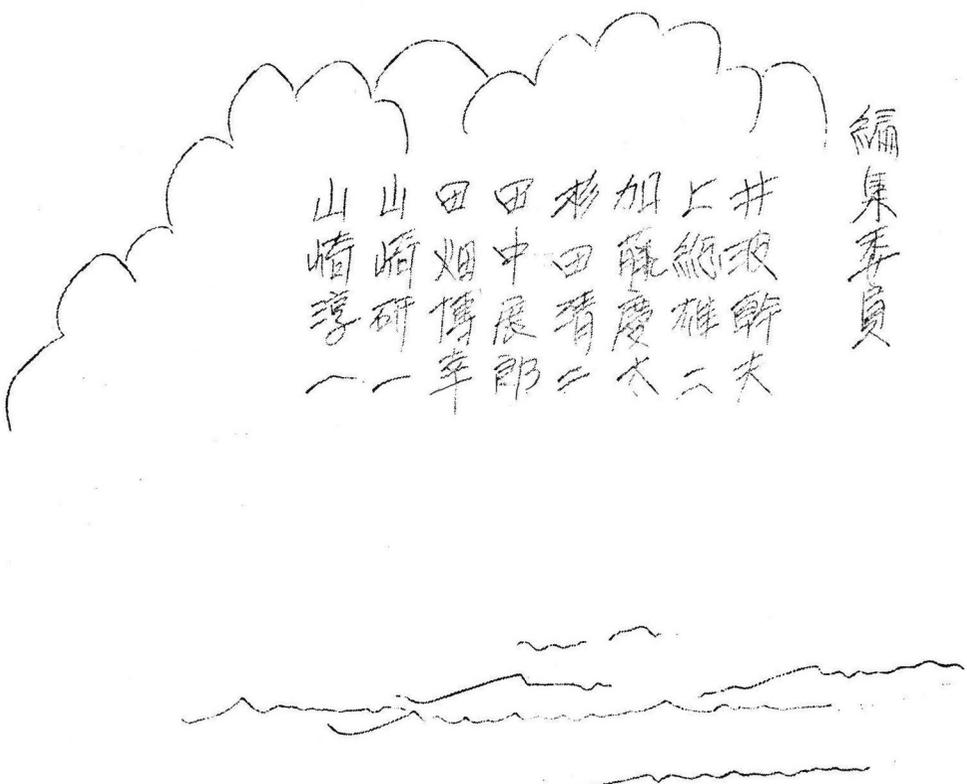
編集室
代表

杉田 清二

現在ハ合宿所

神奈川県横須賀市長井町荒崎5281

秋本方 0468-56-2837



編集委員

井 液 幹 夫
上 総 雄 二
加 藤 慶 太
杉 田 清 二
田 中 展 郎
田 畑 博 幸
山 崎 研 一
山 崎 淳 一

VOL III